

# 書写授業の基本

「書写の授業」のねらいを達成するために

# 書写を学習するねらい

学習指導要領より

- ▶ ・文字を正しく整えて速く書くことができるようにする（能力）
- ▶ ・書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる（態度）



「手本を見て，練習して，作品を書く」

こういった授業でねらいを達成することは難しい！

# そもそも「書く」とは

## ▶ 文字を使って自分の考えを伝える活動

書くという行為だけでは完結しない

相手が読んで自分の考えを理解して完結する

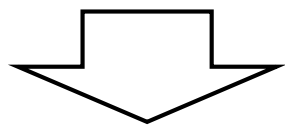
「読む人のことを考える」という相手意識

「何のために書くのかを考える」という目的意識

生徒に指導し、理解させる

# そもそも「書写の授業」のイメージ

教科書が「毛筆」を前面に押し出している



毛筆で上手に書けるように指導しなければ.....

- ・毛筆は得意じゃない（指導者）
- ・毛筆の授業は「汚れ」と「時間」が心配
- ・毛筆には実用性がない
- ・硬毛関連指導というが、用具の性質が全く違うのにどう関連させるか分からない
- ・教室には毛筆作品を掲示するものだ（アニメの影響）

**書写の授業はできればやりたくない.....**

**だから、せめて「書きぞめ」だけ.....**

# そもそも「書写の授業」の指導内容？

- ・文字を正しく整えて速く書くことができるようにする
- ・書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる



## 「教科書」を学ばせる

- 「教科書」が学習目的
- 手本の形をまねさせ、手本に近づけることが目的

## 「教科書」で学ばせる

- 「教科書」は学習手段
- 「何を学ぶのか」の明確化，具体化

文字を正しく整えて速く書くことができるようにする

## そもそも「正しく整えて速く書く」とは？

文字の伝達性：読みやすい，わかりやすい，読もうという気持ちにさせる

実用性：書くためにかかる時間（速度）

実生活ではどちらも尊重しつつ，  
目的や場に応じて軽重を付ける

（例）授業中のメモ，テストの解答用紙，お世話になった方へのお礼状

→ 書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる

# 正しく整えて 速く書けるようにするためには？

## 指導内容

- ①点画の書き方
- ②字形の整え方
- ③大きさや配列
- ④速く書く一つの方法（行書）



実は①から③は小学校でも指導している  
しかし  
定着しているだろうか？

「丁寧<sup>①</sup>に書きなさい」

「きちんと<sup>②</sup>書きなさい」

「しっかり<sup>③</sup>書きなさい」

「手本をよく見て<sup>④</sup>書きなさい」

「丁寧」とは？

「きちんと」とは？

「しっかり」とは？

「よく見る」とは？

# 正しく整えて書くために①

## 点画の書き方

「始筆」, 「送筆」, 「終筆」を再確認し, 徹底する

- 「始筆」? 点画の書き始め  
点画の位置を決定する  
→点画の組み立てを決める (字形)  
文字間, 行間, 行の中心をそろえる (配列)
- 「送筆」? 点画を書いている途中  
点画の形や大きさを決定する
- 「終筆」? 点画の書き終わり  
点画の形や, 文字の印象を決定する。  
→「とめ」, 「はね」, 「はらい」

**「丁寧に」「きちんと」「しっかり」の具体像はこれ!**



# 正しく整えて書くために②

## 字形の整え方

### (1) 全体の捉え方

- ①文字の外形
- ②文字の中心

### (2) 部分の整え方

- ①点画の方向
  - a 横画の傾きを意識する
  - b 縦画の傾きを意識する  
(横画に続く縦画の傾き)
  - c 払い(特に左払い)の方向を意識する
  - d 二画以上の左払いがある時は方向を変える

# 字形の整え方（続き）

## (2) 部分の整え方（続き）

### ②点画の長短

- a 横画が複数ある場合、一画だけ長く書く
- b 左右に払いがある場合はそれぞれ長く書く
- c 「そり」は長く書く
- d 「すいによろ」は長く書く
- e 「まがり」の違いを意識して書く  
(縦の部分と横の部分の比率)

### ③点画の間隔

- a 間隔をそろえる
- b 「れっか」は上の部分から話さない

# 字形の整え方（続き2）

## (2) 部分の整え方（続き2）

### ④点画の接し方，交わり方

- a 「口」の最終画は，左の縦画の横から始まり，右の縦画の下に接して通りその右側に出る
- b 四角形を構成する部分の中に他の画が入る場合，右の縦画で止まる（右に出ない）
- c 「点」の下に横画がある場合，斜めに書いた点は横画に接しないが，縦に書いた点は横画に接する

## 字形の整え方（続き3）

### (3) 部分と部分の組み立て

#### ① 「偏」と「旁」

a 「偏」の右側をそろえて書く

b 「偏」と「旁」の幅を意識して書く

→ 「偏」 < 「旁」, 「偏」 ≒ 「旁」, 「偏」 > 「旁」

#### ② 「冠」, 「脚」

a 各部分の中心をそろえて書く

b 「冠」, 「脚」の幅を意識して書く

→ 「冠」, 「脚」の幅を狭く書く

「冠」 ≒ その下の部分, 「脚」 ≒ その上の部分

## 字形の整え方（続き4）

### (3) 部分と部分の組み立て（続き2）

#### ③ 「垂」と「繞」

- a 「垂」の中に入る部分は中心より右に書く
- b 「繞」はその上にある部分より右に長く書く

#### ④ 「構」

- a 「構」とその中の部分の大きさに注意して書く
- b 「構」とその中の部分の中心をそろえて書く

「手本をよく見る」の具体像は「手本を見て」

文字の全体を捉え

部分の整え方を捉え

部分と部分の組み立て方を捉えること

# 正しく整えて書くために③

## 配列

### (1) 文字の大きさ

- ① 仮名は漢字よりも小さめに書く

### (2) 間隔の整え方

- ① 文字と文字の間（字間）をそろえる
- ② 行と行の間（行間）をそろえる
- ③ 文字の中心をそろえる = 行の中心

### (3) 書くスペースと文字の関係

- ① 文字の大きさを考える
- ② 用紙の上下左右に取る余白を考える

文字の集合体を読みやすく書くための注意点

# 書写の授業の考え方

教科書は必ず使わなければならない

1 単位時間(50分)を20(10)回まるまる授業をしなければならない  
毛筆作品を作らなければならない

教科書は必要に応じて使う

1 単位時間使う授業と適宜書写の学習内容を盛り込んだ授業を行う  
作品作りを普通の授業の目的にしない

※書きぞめとの関連

書きぞめを授業で取り組む中で、

「点画の書き方」に注意することの大切さ

「字形の整え方」の具体的な方法や成功体験

「行書の特徴」の具体的な形や用筆から速さの実感、などを  
指導したり、確認したりする

評価も、いわゆる「上手」「下手」で評価するのではなく、

指導内容を重点化し、評価内容を絞って評価する

展覧会に出品する作品づくりに全員で取り組む、というのは非現実的

# 最後に

「1単位時間書写の授業をする」となると頭が痛くなります。  
生徒は面倒くさいし、どうせうまくないし、書いた字を見られるのは恥ずかしいし  
教師は自分が生徒だった時の経験から指導に自信が持てないし(スミマセン)……。

## 「手本を見て、練習して、作品を書く」

こういった授業は生徒も教師も苦痛ですし、書写学習のねらいは達成できません。  
漠然と「上手」を目指すのではなく、能力(技能)を具体的に示すことが大切です。  
全てを指導できなくても、生徒の気付きを引き出せれば。

「文字を上手に書きたい」というのは万人の願いです。

「上手」とは個人の感覚的なものによるものです。

教師の「声掛け」ひとつで「上手に書けた」という達成感が得られ

「書こう」という意欲につながります。

「速く書く」と「行書」の関連まではたどり着きませんでした。